

大和小学校

研究主題 「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」

副題 一個が生かされ 基礎学力の定着をめざした授業づくり

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 児童の基礎学力の実態把握と分析
(児童アンケート・学力調査)
- (2) 算数科の基礎的学力の定着をめざす指導の工夫
(理論研究・学習会・研究授業)
- (3) 個に応じた、きめ細かい指導の実践とわかる授業の工夫
(研究授業・一人一実践授業公開)
- (4) 望ましい学習習慣と学習態度の育成を図るための指導の工夫
(家庭学習の習慣・基礎的な生活習慣・学習規律)

II 研究実践

1 理論研究

- ・学習会 「学習効果のある学校」
「伝え合う力を身につけるための学び方の基礎・基本」
講師：鷹野 晃指導主事 小林 誠一指導主事

2 研究授業

- ・第2学年 算数科 「九九をつろう かけざん(2)」
指導・助言：一之宮 英文主幹指導主事

3 授業実践(一人一実践)

- ・第1学年 算数科 「かたちあそび」
- ・第3学年 算数科 「かけざんのしかたを考えよう かけ算の筆算(1)」
- ・第4学年 算数科 「わり算の筆算を考えよう」
- ・第5学年 算数科 「百分率とグラフ 百分率の問題」
- ・第6学年 算数科 「比」
- ・さくら学級 算数科 「三角形と四角形 形に名前をつけよう」
- ・りんどう学級 算数科 「かいものをしよう 4けたの数」
- ・第5学年 理科 「もののとけかた」

4 学習規律の明確化

- ・学年の発達段階に応じた、基礎基本の定着のための学習規律作成

- ・学年の発達段階に応じた、自己評価（ふりかえり）カードの作成と活用
- ・学習規律の教室用掲示物の工夫

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・国語・算数学力調査（CRT）を2～6年で実施することができ、児童の学力をある程度把握することができた。
- ・本年度、「個が生かされ」「基礎学力の定着」につながる研究を進めたことは、良かった。
- ・実際に研究授業をしてみることは意義があった。いつになっても授業研究は準備や指導案づくりに苦勞すると思うが、お互いに向上する良い機会であったことは間違いない。
- ・全員が授業を提供し、授業を見合うことができ参考になった。良いところを取り入れ、自己の授業に取り入れていきたい。
- ・学年の発達段階に応じた学習規律の掲示がどの学級にもあり、全校で取り組んでいるということが、全体に意識された。
- ・学習規律については、全校で統一しつつ、発達段階に応じたものとして確認されて良かった。特に、目に見える形で掲示するなどの工夫も良かった。
- ・ふり返りカードを作って、子どもたちに学習規律を意識化させることは大変良かった。
- ・ブロック別に研究組織を構成し、学年の発達段階に応じた研究ができ、有効であった。
- ・多くの行事の間をぬって忙しかったが、研究授業や全員の授業公開など、実施できた。
- ・今年度、研究副題を変更し、また研究の中心となる教科が算数科に変わったが、1年目として成果をあげられたと思う。来年度も、さらに児童一人ひとりの算数科の基礎学力が向上するように努力したい。
- ・校内研を通じて、教師が考えなければいけない教育課題等を確認することができた。
- ・全職員で研究することは、大変意義のあることだと思う。忙しい毎日であるが、研究の視点を常に持ち続けることが大切であると思う。

2 課題

- ・CRT検査の結果から、国語では「読むこと」が全国と比較して劣っている。それに伴い、言語事項が低い学年が見られる。算数では、学年の差があるものの、基礎的な学力の積み重ねが課題と考える。
- ・今後さらに、基礎的な発問の仕方や学び合うための授業の進め方、グループ学習の仕方など研究を進めていく必要がある。
- ・基礎学力を定着させるためには、家庭学習の習慣化が大切になってくる。保護者の協力を得て、計画的に課題を出す具体的な方法を考えたい。
- ・基礎学力定着と基礎的生活習慣・家庭学習習慣と関連性に着目し、今後、学校と保護者の人間関係づくりや連携にも視点を向ける必要生を感じる。

（研究主任 高添 勉）